

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 海外協定大学への学生派遣

協定に基づく派遣日本人学生数、5年間で2倍以上に増加

実績(人)						目標(人)		
H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 28	H 31	H 35
895	954	1057	1381	1570	1962	1090	1560	2500

平成30年度は1,962人を海外協定校に派遣し、前年度比392人増、SGU採択前の平成25年度に比べると1,067人増と2倍以上の規模に拡大した。

学生の海外派遣の量的拡大を目指し、全学提供型では、短期を中心に10プログラムを新規に開発・提供。新たな取り組みとして、体育会所属の学生を主対象に、豪州の協定校及びプロスポーツチームと連携し「スポーツを通して英語を学ぶ」をテーマとしたプログラムの提供を開始した。

また、各学部・研究科が各々の学問領域に根差した特色あるプログラムの開発を推進し、前年度比約1.5倍、20プログラム増の58プログラムに増加するなど、質的量的の両側面から学生派遣プログラムのさらなる拡充が実現した。

2. 留学生受入

平成30年度は1,292人まで増加し、前年度比49人増、SGU採択前の平成25年度比379人、約1.4倍増となった。平成31年度目標は2年前倒して達成済み、平成35年度最終目標に向け順調に拡大している。

外国人留学生入試の制度改革(日本留学試験の全学部導入、渡日前入試実施学部の拡大など)を通じて、質の高い正規留学生の受入れ拡充に向けて整備を行った。

短期では、北米トップ大学から招聘した講師陣と本学教員が教鞭を取る「KGUサマースクール」を新規に提供開始。フィールドトリップを始め、アクティブラーニング型学習を各授業に積極的に取り入れ、協定校の学生と本学学生が融合して学べる機会を拡充した。

全学生に占める外国人留学生数

実績(人)						目標(人)		
H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H28	H31	H35
913	920	1052	1115	1243	1292	1020	1200	1500



〈「KGUサマースクール」のフィールドトリップで、トヨタ自動車の工場見学に参加する履修学生〉

3. 全学的な英語教育の充実

平成29年度から導入した入学直後からの習熟度別クラス編成を推進し、全学レベルでは、上位層向け英語教育科目の改善・充実とともに、下位層に特化した科目を提供した。各学部の英語教育責任者で構成する英語教育FD部会を定期的に開催し、各学部が担当する中間レベルのマス層の英語教育の強化及び全学の英語教育科目の充実に取り組んだ。また、学生の英語スコア管理システムを改修し、スコアデータをより精緻に分析できるよう体制を整備した。

本学SGU構想では、英語力基準(TOEFL-ITP®で国際学部550点、文・総合政策学部540点、その他の学部520点)を満たす学生数を平成25年度の1,027人から約2倍に拡大することを計画しており、平成30年度の当該学生数は2,281人で、昨年度比413名増、平成25年度から約2.2倍となっており、最終年度目標を5年前倒して達成した。

ガバナンス改革関連

将来構想“Kwansei Grand Challenge 2039”に基づく中期総合経営計画を策定

将来構想“Kwansei Grand Challenge 2039”に基づく「中期総合経営計画」は、経営資源のより効果的な活用をめざし教学、財政、人事、建設、情報化等の諸計画が一体的かつ整合的に策定されたもので、私立大学の「総合的マネジメントの実現」に向けて大きく前進することができた。平成30年度は20回を超える講演・ヒアリング依頼に対応し、知見を学外に広く共有した。

教育改革関連

質保証に関する知見を学内外に広く共有

学習状況、留学等の海外活動、正課外活動、就職活動など大学生生活の経験全般を含んだ全学生対象の本学独自eポートフォリオ機能の改修を行い、学生は学習の記録・成果や自身の目標の達成状況をより容易に蓄積し、振り返ることができるようになった。

また、平成30年度は質保証に関するシンポジウムを2回開催した。平成31年2月には本学のIRやポートフォリオに関する知見を、3月には日米の学習成果の可視化に関する最新動向を学外に広く共有した。



〈平成31年3月本学大阪梅田キャンパスで開催した学習成果の可視化をテーマにした国際シンポジウム。全国の大学関係者等約100名が参加〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. ダブルチャレンジ制度の登録必須制スタート



〈本学SGU構想HPのダブルチャレンジ修了者の声紹介ページ
(<https://gap.kwansei.ac.jp/>)〉

学生がホームとアウェイの2つのチャレンジに取り組む「ダブルチャレンジ制度」において、構想当初の予定を1年前倒し、平成30年度より新入生全員に対して登録を必須化した。

本制度の認知度向上、学生への動機づけを図るため、ダブルチャレンジ案内冊子の充実、及び本制度を通じ多様な経験と学びを通じてグローバル社会に飛び立った卒業生のインタビューをHPで広く公開した。

アウェイチャレンジの各プログラムで単位を取得して平成30年度に卒業した学生の延べ人数は、国際プログラム1,345人、ハンズオン・ラーニング・プログラム2,336人、副専攻プログラム123人で、**実数の単位取得者数は合計2,338人であり、昨年度比376名増となった。**

2. 大学院副専攻「国連・外交コース」第1期修了生の輩出

国連・国際機関職員や外交官等、「世界の公共分野で活躍するグローバルリーダー」を育成することを目的に平成29年度に開設した大学院「国連・外交コース」から第1期修了生が5人輩出した。

本コースは、大学院博士課程前期課程修士および大学院専門職課程(専門職学位)の副専攻プログラムとして提供するもので、修了学生は各所属研究科での学位取得と同時に、全て英語で実施される「国連・外交コース」所定課程から23単位を取得。コース修了者は必修とされている海外の国際機関等でのインターンシップ等を通じ、実践的能力の涵養、実務経験を積んだ。

平成30年度は第2期生として10名が新規にコースに加わった。「高大接続~学部教育~修士レベル教育」を通貫するスキームが完成し、今後は修了者に向けて長期的なキャリア形成のサポートを推進していく。



〈平成31年3月、「国連・外交コース」第1期修了生と関係教職員〉

3. ハンズオン・ラーニングの拡充

ハンズオン・ラーニング(実践型学習)科目を開発、運営する拠点として、平成29年度に開設したハンズオン・ラーニング・センターを中心に全学と各学部双方でハンズオン・ラーニング科目の拡充を図った。

ダブルチャレンジ制度の全学的な促進と共に、ハンズオン・ラーニングプログラムの広報活動を強化したことにより、全学提供ハンズオン科目の履修者数は平成30年度に倍増し、908名(前年度比476名増)となった。

また、夏季/春季休暇中の約6週間で実施する課題解決・企画提案型の実践的な「ハンズオン・インターンシップ実習」のエリアを岩手、福井にも拡大し、質的量的両側面からプログラムの充実を図った。

「ハンズオン・インターンシップ実習」プロジェクト例

平成30年度新規エリア拡大(岩手・福井)

大阪・尼崎	日本の伝統文化「菰樽」の顧客ニーズ調査プロジェクト
石川・能登	道の駅の名物オリジナル新商品・新レシピ開発プロジェクト
岡山・笠岡	ITを活用した廃棄農作物の流通加速プロジェクト
岩手	いわての木で造るおもちゃで「木育(もくいく)」プロジェクト
福井	文房具店のテーマパーク化プロジェクト



〈ハンズオン・インターンシップ実習で岩手の「木育」プロジェクトに参加した学生〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

“AI”を活用してSDGsの課題解決に挑戦する高校生を支援する高大連携の取組

関西学院高等部は平成31年、文部科学省「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」の拠点校に採択された。AIの活用によりSDGsの課題を解決できる能力を涵養することを通じて、Society 5.0を牽引し世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したグローバル人材の育成を目指す。

本学は本構想拠点校となる関西学院高等部をはじめ、全国の連携校で形成する「アドバンスラーニングネットワーク」において、AI活用人材育成プログラムをはじめ、高校生が果敢にSDGsの課題解決にチャレンジできるプログラムを提供、支援していく。

■ 自由記述欄

国連職員を招いた国連・外交フォーラム及び特別講演会を開催

10月28日に、UN Womenとの共同主催で、UN Women 日本事務所所長石川雅恵氏による国連・外交フォーラム「SDGs 目標5を考える『あっ！こんなところにジェンダー課題』無意識な性別固定概念を考えへん？」を西宮上ヶ原キャンパスで開催した。石川氏はUN Womenの優先課題5項目の説明に続き、女性のリーダーシップと政治参画、女性の経済的エンパワーメント等について解説。質疑応答形式で約70名の参加者とともにオープンディスカッションを行った。

また、国連・外交フォーラム特別講演会(7月12日国連軍縮上級政務官河野勉氏、10月12日国連開発計画(UNDP)アフリカ局TICADプログラムアドバイザー小松原茂樹氏)を含め、年間を通じて、国連・外交関連のイベントを9回開催した。